

神の回復プロジェクト



神の回復プロジェクト

使徒ペテロが、キリストの再臨後に起こる出来事についての預言の中で「回復」という用語を用いたことは、再建の時期が訪れることを示しています。（使徒言行録 3:19-

21）この計画は、新たな樂園の創造を求めるものではなく、失われた樂園の回復を求めるものです。

イエスはルカによる福音書19章10節で、人の子は失われたものを探し出し、救うために来たのだと語っています。この神の計画の成就には、イエスの初臨と再臨の両方が必要とされます。初臨の際、イエスはエデンの園で人類に課せられた死の宣告を取り消すために、ご自身を身代金として捧げられました。再臨の目的は、アダムの背きによって命を失った者たちを、再び命へと回復させることにあります。

もし私たちが、神の律法に背く前に最初の両親が享受していた完全さと幸福を想像することができれば、失われた樂園とそのすべての祝福が、再臨されたキリストによって回復されたときに、この世にもたらされる画期的な変化を、少なくとも部分的には理解することができるでしょう。エデンの園は、神の回復の計画が完了したときに全地球がどのような姿になるかの一例に過ぎませんでした。

神の恵みが戻る

使徒は、「主の御臨在」から「さわやかな時」が訪れると述べています。この表現は、「主の御顔から」という意味のギリシャ語から翻訳されたものです。この典型的な東洋的な表現は、人類に対して神の恵みが現されるという考えを示唆しています。

したがって、使徒が概説した完全な考えとは、キリストの再臨は、人類に対する神の恵みの回復の現れであり、それによって神が人類に恵みを輝かせ、失われたエデンの故郷へと回復させることによって彼らを祝福する時代が到来するというものです。

使徒は、神の聖なる預言者たちが皆、来るべき回復の時代を予言していたと宣言している。ダビデもまた、この主題について多くを語った預言者の一人であった。詩編第30篇5節で、彼は神の恵みの回復という考えに関連して、このことについて言及している。彼はこう述べている。「主の怒りはほんの一瞬続くに過ぎない。主の恵みには命がある。泣きは夜の間に続くかもしれないが、朝には喜びが来る。」神がご自身によって創造された人間に対する怒りは、私たちの最初の両親が神の律法に背いたときに始まりました。その結果、彼らは死の宣告を受け、完全なエデンの園から追放されました。彼らの子供たちは生まれた時から不完全であったため、死の罰は彼ら、ひいては全人類へと受け継がれました。全世界は、悲しみと死の「夜」を通り抜けてきました。

神の回復プロジェクト

この神の怒りの現れは六千年にわたって続いてきたが、神の恵みと祝福という永遠の観点から見れば、それはほんの一瞬に過ぎず、一人ひとりにとって、それは
ゆりかごから墓場までのほんの数年の短い期間にすぎない。

この神の不興の「夜」は、いつまでも続くわけではない。

神は人類に顔を向けてくださるでしょう。神の恵みは、まず人類の贖い主として御子を遣わされたことに示され、さらに、贖われた人類を回復するために御子を二度目に遣わされたことにも示されています。ダビデは、「その恵みの中に命がある」と付け加えています。これは、神が再び人類に微笑みかけてくださる時、病気と死は終わることを意味します。それは、罪と悲しみと死の長い夜が、喜びの朝をもって終わりを告げることを意味するのです。

贖いの業

すでに述べたように、これから訪れる回復の時代は、キリストの初臨において成し遂げられた贖いの業によって可能となる。

預言者ホセアは、主の代弁者として次のように語ることで、このことを指しています。「わたしは彼らを陰府の力から身代金として贖い出し、死から救い出す。死よ、わたしはあなたの災いとなる。陰府よ、わたしはあなたの滅びとなる。悔い改めは、わたしの目から隠される。」ホセア書13章14節

先ほど引用した聖句において、神の預言者が身代金を死の滅びと結びつけている点に注目してください。新約聖書は、神の御子イエスが、この身代金となるために天の父によって世に遣わされたことを示すことで、この真理を説明しています。イエスは、「義なる者が不義なる者のために」死ぬために来られたのです。（ペテロの手紙一

3:18）。パウロは、これすべてが、人類を死から救うという神の御計画に沿ったものであると説明しています。なぜなら、使徒はこう述べているからです。「神はただひとりであり、神と人との間のとりなし手もただひとり、人であるキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の身代金としてご自身をささげ、そのことが定められた時に証しされるためでした。」テモテへの手紙一 2:5,6

キリストの贖いの業による恵みは、知識と信仰という条件を満たした者にのみ与えられるものであるため、使徒は、この知識が「定められた時に」すべての人に「証しされる」と私たちに保証している。世界の人々にキリストの贖いの知識が証しされる「定められた時」とは、主の再臨に続くメシアの時代のことである。

神のすべての預言者たち

ペテロは、来るべき回復の時代に関する事実が、世の初めから神のすべての聖なる預言者たちの口を通して証しされてきたと語っています。旧約聖書を調

神の回復プロジェクト

べてみると、これが真実であることがわかります。イザヤ書はこれらの聖なる預言者の一人であり、彼は回復について多くの情報を提供しています。イザヤ書の第35章において、彼は、盲人の目が開かれ、耳の聞こえない者の耳が開かれ、沈黙していた舌が解かれ、足の不自由な者が鹿のように跳びはねるようになることを告げています。

またイザヤ書は、人々のために開かれる「大通り」、すなわち聖さ、あるいは完全さへと導く道についても語っています。

彼は、この福音の時代の「いのちへの狭い道」とは異なり、この大通りではすべてが非常に明瞭になると語っています——それほど明瞭であるため、学のない普通の旅人であっても、道を誤ることはないでしょう。これは、その時代に関する他の預言的な言葉とも一致しており、その時には「主の知識が、海が地を覆うように、地を満たす」と告げています。イザヤ書11章9節；ハバクク書2章14節

また、イザヤ書は、この大路には獅子がいないことを保証しています。ペテロは、現在の時代について、「悪魔は、ほえたける獅子のように、誰かを食い尽くそうとしてうろついている」と語っています。

（ペテロの手紙一

5:8）。ヨハネによる福音書によれば、来るべき回復の時代のまさに初めに、サタンは縛られることになっています。（ヨハネの黙示録

20:1,2）。したがって、命と楽園へと続く大通りには

、いかなる獅子も登ってこない、と預言者が語ったのは、まったく正しいことでした。

イザヤ書は、「そこには獅子もいないし、凶暴な獣もそこを登ることはない。それらはそこには見当たらない」と述べて、聖なる道の描写を続けています。聖書は、古来より人々を苦しめ、苛んできたさまざまな獣について語っています。

そのうちのいくつかは、ダニエル書やヨハネの黙示録でも言及されています。それらは、人々を搾取し、抑圧してきた、ある種の獣のような政府を象徴しています。しかし、メシアの王国が確立される前に、これらすべての「獣」は滅ぼされることになっています。ですから、「そこには凶暴な獣はいない」というのは事実となるでしょう。イザヤ書35章9節

最後に、預言者は、この大通りを「主によって贖われた者たちが帰還し、歌と永遠の喜びを頭に載せてシオンへとやって来る。彼らは喜びと歡喜を得、悲しみと嘆きは消え去る」と告げています。

実に、それが神が人類を贖われた目的でした。すなわち、人々が死から立ち返り、再び生きる喜びに入ることができるようにするためです。それは、かつての

での経験による喜びをはるかに超える喜びとなるでしょう。なぜなら、彼らは神を知るようになり、もし生き続けるならば、神の御心と、豊かにする神の祝福を受けることになるからです。イザヤ書35:1；箴言10:22

神の回復プロジェクト

預言の観点から見ると、回復には復活が含まれていることがわかります。キリストの再臨によって、その時点で生きている世代の一部が改心することになると認める聖書研究者はいます。

しかし、彼らは回復の範囲をこのいわゆる回心だけに限定しようとしており、もし地上のすべての家族が祝福され、「万物の回復の時」が訪れるのであれば、それは生きている人々だけでなく、すでに亡くなった人々にも祝福を受ける機会が与えられることを意味することに気づいていない。したがって、預言の観点から見ると、回復には復活が含まれていることがわかる。

ヨブもまた神の聖なる預言者の一人であり、彼は復活への希望を次のように表現しました。「人が死んでも、再び生きるだろうか。私の定められた日数が尽きるまで、私は待ち続ける。私の変容の時が来るまで。あなたが呼びかけられれば、私は答える。あなたは御自分の御手のわざを望まれる。」（ヨブ記 14:14,15）。このように、ヨブは、墓から自分を呼び出す主の声を聞くという信念を表明しました。イエスもこれに同意し、さらにその範囲を広げてこう言われました。「これを不思議に思うな。墓にいる者たちは皆、その（人の子の）声を聞いて出て来る時が来るからだ。」ヨハネによる福音書 5:28,29

ソドムの住民の回復

エゼキエルもまた神の聖なる預言者の一人であり、彼は、ソドムの住民のような邪悪な人々でさえ、回

復の時代に墓からよみがえらされるという事実に重点を置いている。ユダヤ人たちの不忠実を叱責しつつも、同時に復活への希望を彼らに思い起こさせるために、エゼキエルは次のように述べている。

「あなたの姉妹であるソドムとその娘たちが、かつての状態に戻るとき、あなたとあなたの娘たちも、かつての状態に戻るであろう。」エゼキエル書 16:55

もちろん、これは、神の律法への従順の有無にかかわらず、悪人に対する普遍的な救いを意味するものではありませんが、すべての人々に救いの機会が与えられることを意味しています。

イエスはソドムの住民について、審判の日に彼らの方が、あるユダヤの町々の住民よりもまだましな扱いを受けると述べられました（マタイによる福音書 10:15、11:24）。従順を条件とした永遠のいのちの機会、回復の時代にすべての人に与えられ、それが他の多くの人々よりもソドムの住民にとっていかに有利であるかがわかります。

ユダヤ民族は主から大いなる祝福を受けており、彼らの罪はソドムの住民たちよりも、より大きな光に照らされた中で犯されたものでした。それゆえ、主の律法と再び調和を取り戻すためには、彼らにはより大きな謙遜が求められることになります。イエスは、カペナウムで行われたような力ある業がソドムで行われていたなら、ソドムの住民たちは悔い改めていただろう、と語られました（マタイによる福音書 11:21-23）。

ソドムでは多くの偉大な業がなされるでしょう。彼

神の回復プロジェクト

らは死の眠りから目覚め、最も好ましい状況の下で、悔い改めて生きる機会を与えられます。そして間違いなく、彼らの大半は悔い改め、喜んで永遠の命への大路へと歩み出すでしょう。

復活する子供たち

エレミヤもまた主の聖なる預言者であり、彼は回復について多くを語っている。彼の預言の第31章には、子供たちの復活に関する約束が見られる。この約束は、イエスの誕生時にヘロデによって虐殺された子供たちに関するものであるが、それにもかかわらず、子供として死の世界へ下った者すべてを命へと回復させることが神の御心であることを示している。

母親たちにとって、子供たちが元通りに戻され、まるで死んでいなかったかのように彼らを育てる特権を得られることは、なんと素晴らしいことでしょう。預言者はこう言っています：

「主はこう言われる。ラマで、嘆きと激しい泣き声が聞こえる。ラケルは子供たちのために泣き、慰めを受け入れようとしない。彼らはもはやいないからだ。主はこう言われる。泣き声を抑え、涙をぬぐいなさい。あなたの労苦は報われるからだ、と主は言われる。彼らは敵の地から帰って来る。それゆえ、あなたの子孫には希望がある、と主は言われる。

『あなたの子供たちは、自分たちの地に戻ってくる。』エレミヤ書 31:15-17

預言者ダニエル書もまた、回復の時が来ることを予言し、それが現在の時代が終わりを告げようとしている大患難の後に続くことを示した。彼は、「地の塵の中に眠る多くの者が目覚める」と述べている。

（ダニエル書 12:2）。神が私たちの最初の両親に死の宣告を下されたとき、こう言われました。「あなたは塵から造られたのだから、塵に帰るのだ。」（創世記

3:19）。これは、アダムに下された死の宣告が取り除かれ、眠りについていた者たちが再び命に回復されることを意味します。回復という祝福された御業を、なんと美しく表していることでしょう！

アモスもまた神の聖なる預言者の一人であり、主の御名によって次のように語っています。「その日、わたしは倒れたダビデの幕屋を建て直し、その破れ目を塞ぎ、その廃墟を立て直し、古き日のようにそれを築き上げる。」（アモス書 9:11）。ダビデの幕屋とは、敵の手からイスラエルに返還された契約の箱を納めるために、ダビデが建てたものです。契約の箱は、神の臨在と恵みの美しい象徴でした。それは一時、イスラエル人から奪われていましたが、彼らに返還されたとき、それは神の恵みが再びその国民の上に注がれたことを意味し、大いなる喜びの時を告げるものでした。

したがって、ダビデの幕屋の再建は、長い間イスラエルから引き離されていた神の恵みが、再びイスラエルに回復されることを示す象徴である。これこそが、「回復の時」において、イスラエルと全世界の

神の回復プロジェクト

ために起こる出来事である。

この預言は『使徒言行録』第15章で引用されており、その成就是キリストの再臨の時であり、その時にはユダヤ人だけでなく異邦人も祝福を受けることが示されている。以下に引用する：

「ヤコブは言った、『兄弟たちよ、私の話に耳を傾けてください。

シモンは、神がまず異邦人の中から御名の民を選ぶためにどのように介入されたかを、私たちに説明してくれました。預言者たちの言葉（

）もこれと一致しており、次のように記されています。『その後、わたしは戻って、ダビデの倒れた天幕を再建する。その廃墟を再建し、それを回復する。そうすれば、残りの人類、すなわちわたしの名を持つすべての異邦人が、主を求めるようになる、と主は言われる。』」使徒言行録 15:13-17

ここには、イエスの初臨と再臨の間の神の御旨が、全世界を改宗させることなく、単に異邦人の中から、将来の御国の働きにおいて主と共にする小さな群れを選び出すこと——すなわち、「御名の民」を導き出すことにあることが示されている。

さらに、神の愛の御旨の栄光に満ちた目的がここに示されている。すなわち、この「御名の民」が異邦人から選び出された後、神の恵みがユダヤ人へと戻ると告げられているのである。そしてその時、すべての異邦人もまた、主を求める機会を得るようになるのである。

シオンの山に現れる救い主たち

オバデヤ書もまた主の聖なる預言者の一人であり、その預言の最後の節で、彼はこう言っています。「救い主たちがシオンの山に上り、エサウの山を裁く。そして、その王国は主のものとなる。」

通常、私たちはただ一人の救い主しか思い浮かべませんが、確かに、イエスは世界の救い主です。イエスの流された血がなければ、誰にとっても救いはあり得ません。それにもかかわらず、イエスの足跡をたどる者たちは、世界に救いをもたらす働きをイエスと共に分かち合うよう招かれています。彼らは、イエスの王国においてイエスと共に生き、支配するために、イエスと共に苦しみ、死にます。そして、イエスの支配は、世界を死から救い出すことを目的としているのです。

『ヨハネの黙示録』14章1～4節では、シオンの山にこれらの救い主たちの正体が明らかにされています。ヨハネはこう述べています。「そこで、私は見ると、シオンの山の上に小羊が立っており、その傍らには、額に小羊の名と父の名が記された14万4千人がいた。」これで、ヤコブが「異邦人の中から集められた民」——すなわち「神の御名のための民」——とは何を意味していたのかがわかります。

当初、この栄光に満ちた機会はユダヤ人に限定されていたが、彼らは民族としてそれを拒んだため、主は異邦人へと目を向け、象徴的なシオンの山でイエスと共に立つことになっている、定められた数の救

神の回復プロジェクト

い主を満数にするために彼らを選ばれた。彼らは皆、神の家族に迎え入れられ、それによって新しい王国における神の統治の家となるため、全員が父の名を帯びなければならないのである。

王国の時代、シオンの山でイエスと共に「救い主」として描かれているイエスの弟子たちは、自らを身代金として捧げたからそう呼ばれるのではありません。

実際、彼らがそうする必要はありません。しかし、イエスに従って犠牲的な死に至るまで忠実に歩んだゆえに、彼らはイエスの身代金による業によって約束された祝福を、イエスと共に分配する権利を与えられているのです。預言者が示すように、救い主たちがシオンの山に立つ時、それは「王国が主のものとなる」時です。それが回復の時となるでしょう。

終わりの日の祝福

ミカもまた聖なる預言者の一人であり、彼は「回復」について多くを語っています。第4章1～4節には、次のように記されています。「しかし、終わりの日には、

主の家の山が諸山の頂に確立され、丘々よりも高く掲げられ、人々はそこへ押し寄せるとなる。

多くの国々が来て、こう言うだろう。『さあ、主の山、ヤコブの神の宮へ上ろう。主は御自身の道を私たちに教え、私たちは主の道に従って歩む。律法はシオンから、主の言葉はエルサレムから発せられるからだ。』

主は多くの民の間で裁きを行い、遠く離れた強大な国々を懲らしめられる。彼らは剣を鋤に、槍を剪定鎌に打ち直す。国は国に対して剣を振るうことはなく、もはや戦いを学ぶこともない。人々は皆、自分のぶどうの木の下、いちじくの木の下に座り、だれも彼らを恐れさせる者はいない。万軍の主の口がそう告げられたからである。」

ダニエル書2章35～44節を参照すれば、「主の山」とは主の王国であることが分かるだろう。その王国の時代に世界にもたらされる回復の祝福がいかに実践的なものであるかに注目してほしい。この描写は「終わりの日」、すなわち、大患難の時代によって古いサタンの秩序が取り除かれる期間から始まる。人々は苦難の中、何をすべきか——人類の利己心と愚かさによって招かれた破滅からいかにして脱却すべきか——について、助けと導きを主に求めるでしょう。

新しい王国を認めるにつれ、人々は主の道、すなわち戦争の道ではなく平和の道を教えられることになる。経済的な安定もまた、メシアの王国のその新しい時代の特徴の一つとなる。すべての人が「自分のぶどうの木の下に住み、

自分のいちじくの木の下に住む」ようになる。もちろん、これを文字通りの意味として理解すべきではありません。これは単に、誰も恐れることのない安全と幸福の象徴に過ぎないからです。その考えは、回復の時代にはすべての人々が十分に養われるというものです。その供給は恒久的なものであり、

神の回復プロジェクト

個人が神の律法に従い続ける限り、永続するでしょう。

普遍的な宗教

ハバククは主の聖なる預言者であり、彼はその回復の日のことについて、「海が水を覆うように、地の果てまで神の栄光の知識が満ちる」と語っています。
(ハバクク書

2:14)。もう一人の聖なる預言者ゼファニヤもまた、その時に人々に与えられる神からの啓示について語っています。引用します。「そのとき、わたしは民に清い言葉を授ける。そうすれば、彼らは皆、主の御名を呼び求め、心を一つにして主に仕えるようになる。」ゼファニヤ書 3:9

サタンの目をくらませる影響は、神の栄光の知識の光によって払拭されるでしょう。その時、民に与えられる「純粋な言葉」——すなわち教え——は、預言者が言うように、全人類が主の御名を呼び求め、心を一つにして主に仕えることにつながるでしょう。こうして、回復の時代において、神に関する真の知識が回復されるのです。

その喜びに満ちた回復の日について主の御言葉を語った預言者ゼカリヤは、王国の時代における啓発的な影響が人々にどのように及ぶかを詳細に説明している。彼はこう述べている。「その日、光源はもはや輝かないが、それでも　　昼は絶え間なく続く！これがどのようにして起こり得るのか、主のみがご

存知である。

通常の昼も夜もなく、夕暮れになってもなお明るいままである。」ゼカリヤ書14:6,7

ここでの考え方は、段階的な啓蒙というものです。それがどのようにして実現されるかは容易に想像が付きます。

メシアの王国は、まず生きている世代の間で確立される。地球の広大さと、そこに住む無数の人々を思えば、すべての人が新しい王国のことを知るまでに、ある程度の時間がかかるのは理解できるだろう。また、人々が神に関する迷信的な考えを捨て去り、神を真に知ることができるようになるのにも、時間がかかる。

次に、すでに亡くなった何十億もの人々がいます。彼らは死からよみがえった際、神に関する真の知識を教えられなければなりません。彼らは墓の中にいる間、何も学んでいません。したがって、墓から引き出されたとき、彼らは真の神について学び、神の律法に従う機会を得る必要があるのです。このように、人々を啓蒙する働きは、王国の千年の「日」の間ずっと続くことになります。

その期間中は、一部は明るく、一部は暗い状態となるでしょう。つまり、人々の盲目さや迷信が徐々に取り除かれていく時期となるのです。その働きが完了するまでは、世の中には依然として象徴的な闇が残っているでしょうが、夕方、すなわちその栄光に満ちた日の終わりには、完全に明るくなるでしょう

。
その頃には、預言者マラキが預言した「義の太陽」の啓発と癒しの力が、闇の霧をすべて払いのけ、神の栄光に関する
な知識が地を満たすことになるでしょう。マラキ書
4:2

目に見える祝福

キリストの再臨の結果は、栄光に満ちたものとなるでしょう。キリストの御国の統治を通じて与えられる祝福は、極めて現実的なものとなるでしょう。回復の時代を予言した神の聖なる預言者たち全員の証言によれば、これらの祝福は次のようなものとなるでしょう：

真の神とその計画に関する啓示。エデンの時代以来、混乱した世界を悩ませてきた数え切れないほどの迷信的な信仰に終止符を打つもの

あらゆる種類の病気からの解放

アダムの死からの解放

戦争の終焉

すべての人への経済的安定。

メシアの王国におけるこれらすべての実用的で満足のいく恵みは、無条件に与えられるわけではない。使徒ペテロは、「回復の時」について語る際、次のように注意深く私たちに警告している。「その預言者の言うことを聞かない者は、民の中から滅ぼされ

ることになる。」 (使徒言行録

3:23)。「羊と山羊」のたとえ話でも、まさにこの同じ考えが私たちの注意に喚起されている。羊に象徴される者たちに対しては、「さあ、わたしの父に祝福された者たちよ、

世界の創世の初めからあなたがたのために用意された王国を受け継ぎなさい」と告げられる。

しかし、山羊、すなわち不従順な者たちに対しては、「私から離れよ、のろわれた者たちよ。永遠の火の中へ」と告げられる。あるいは、最後の節が示すように、「永遠の懲罰」へと追いやられる。これは、ギリシャ語によれば、命から「切り離される」ことを意味する。マタイによる福音書25:31-46

このたとえが示すように、その日の従順な者たち、すなわち羊の階級には、本来の支配権が回復されることになる。その支配権は、地と地上の万物に対するものであった。したがって、ここでもまた、世界規模でその範囲と効果を持つ、回復、すなわち楽園の回復という考えが示されている。

これは、貧しく、罪に蝕まれ、死にかけている世界にとって、なんと輝かしい希望であろうか。神の回復計画の開始によって地上に起こる変化を、今の私たちには想像することさえ事実上不可能である。

病気や死が滅ぼされることによってもたらされる変化を想像してみてください！

戦争がなくなることによって生じるその他の変化についても考えてみてください。人々が真の神を知り、愛し、心から仕えることを学ぶことによって訪れる変化

神の回復プロジェクト

を思い描いてみてください。あらゆる人間活動の原動力として、利己主義の代わりに愛が君臨することの意味を、考えてみてください！

人々が死について考えたり、その準備をしたりする必要がなくなる時、その視点がいかに変わるか考えてみてください。せいぜいわずかな幸福で成り立ち、残りは失望と悲しみで構成される、短く慌ただしい人生ではなく、彼らの前に広がる永遠の喜びを思い描いてみてください。

神に靈感を受けた聖なる預言者の一人の言葉を借りれば、「神は

、彼らの目からすべての涙をぬぐい去られる。もはや死もなく、悲しみも、泣き叫ぶことも、痛みも、もはやない。これらのものはすべて、永遠に消え去ったからである」という時を想像してみてください。ヨハネの黙示録21:4

これは不可能でしょうか？

いいえ、神にとってこのようなことは何一つ不可能ではありません。私たちには不可能に見えるのは、おそらく、これまでそのようなものを一度も見たことがないからでしょう。人生そのものが私たちには不可能に思えます。つまり、私たちは人生とは何かを理解していないのです。誰が、心臓の鼓動の哲学を私たちに説き明かせるほど賢いでしょうか？

しかし、創造主である神は、心臓と心拍を創造されました。そして、かつてはわずかな命の鼓動を途切れ途切れに打ちながらも、最終的には死の荒廃に屈してしまった何十億もの人間の胸の中で、その心拍

を回復させることなど、その同じ神には十二分にできるのです。なぜなら、神の正義は、不完全な人間の被造物が生き続けることは許されないと定めていたからです。

この栄光に満ちた回復の計画は、まもなく確立されるメシアの王国によって成し遂げられるのです。イエスが私たちに教えてくださったように、その日のために祈り続けましょう。「御国が来ますように。御心が天で行われるとおりに、地でも行われますように。」マタイによる福音書6章10節